



Worlds apart: Indigenous People of the North Oda Rånes

All the way north in Norway, Sweden, Finland and Russia live the Sami (no, I will not talk about Santa and his little helpers, though they might live up there too!). The Sami people have their distinct languages, with no resemblance to Norwegian. Their culture and religion are different; traditionally practicing animism and polytheism, not unlike the Ainu belief (and Shintoism also!), and herding reindeer on the vast mountain plateaus north of the Arctic Circle. They still do to this day, but most of them live just like you and me. One of the reasons for this is that they were forced to adapt to Norwegian culture. Norwegianisation, an assimilation policy by the state, was introduced in the late 1800s. It led to the Sami population risking losing their language, identity and culture. Many children were taken from their families and sent to mandatory boarding schools to learn about Norwegian language and culture, not being allowed to speak their mother tongue.

The Ainu were treated in the same way. They were also deprived of their language and culture.

However, it is great to see that the perception of these cultures have changed. Young Sami and Ainu are becoming more and more interested in, and appreciating, their own culture, history and language. Sami 'Joik' songs are getting a modern touch, so is Ainu music! Maybe they can both learn from each other and together create something new?

【ちょっと豆知識】宮地晶子

ウダさんのコラムのタイトルは Worlds apart. apart(アパート)は「離れて」という意味。サーミとアイヌは地理的に遠く離れてますが、共通点がありますね。ところでアパートといえば、賃貸住宅、英語ではapartment。「マンション」の方が一般的ですが、これは英語では大邸宅という意味になります。そう考えるとワンルームマンションで、ありえないですね。

離れてはいるけれど：北方の先住民 ウダ・マイ・ローネス

ノルウェーやスウェーデン、フィンランド、ロシアのずっと北に、サーミ人は暮らしています。(ええ今日はサンタとその小さなお手伝いさんの話ではありません。まあ彼らもその辺りに住んでいるかもしれませんが)。サーミ人は、ノルウェー語とは違う全く別の言語を持っています。文化や宗教も異なり、伝統的には精霊信仰で多神教で、アイヌの信仰に似ています。(神道もですね!)そして、北極圏の北部の広大な高原でトナカイの遊牧をしています。でもまだそういう暮らしをする人はいるものの、ほとんどは私やあなたのような暮らし方をしています。その理由の1つは、ノルウェー文化に馴染むよう強制されたから。1800年代後半に、政府によって同化政策「ノルウェー化」が導入されました。これがサーミ人が言葉やアイデンティ

ティ、文化を失う危機につながりました。多くの子どもが家族と引き離され、ノルウェーの言葉や文化を学ぶために全寮制の学校へ送られ、母語を話すことも禁止されました。アイヌの人々も同じように扱われ、言葉と文化を奪われました。

でも素晴らしいことに、これらの文化に対する認識は変化してきました。若いサーミ人やアイヌ民族は、どんどん自分たちの文化や歴史、言葉に関心を持ち、それを認めつつあります。サーミの伝統歌謡「ヨイク」には現代風なタッチが加えられたりして、それはアイヌの音楽も同じです。もしかしたらこの二つの民族はお互いから学んだり、共に何か新しいものを創り出せるかもしれませんね。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第176回

単語単語単語

前回の「スラッシュ読み」を読んだ人から、こんな話が聞きました。このAさん、センター入試で、ほぼ満点を取った人だから聞く価値あり、です。で、その勉強法は？それは「単語をしっかり覚えたこと。」ガックリすることなかれ。実は私も大学入試を控えた生徒に最初に言ったのは単語を覚えることでした。これって、不都合な真実？書店には、いかにも他に近道がある、という感じの本ばかり並んでいる。でも単語を覚えられないことには仕方ないです。

Aさんの場合、とにかく単語を覚えて、最終的には知らない単語もなんとなく意味がわかるくらいになったとか。使ったのは「東進ハイスクール」の単語集。やり方はパソコンで制限時間内に選択肢から正解を選ぶ、という反射神経を試されるもの。確かにタイムプレッシャーも大事です。意味を思い出すのに時間がかかっているのは、長文読解に使えませんからね。私のお勧めはZ会の「速読・速聴英単語シリーズ」かな。これは、単語と例文、次ページにそれを使ったパラグラフ(ある程度まとまった文書)が載ったもの。これをCDに合わせて、とにかくリピートとシャドウイングする。Aさんの場合「単語を覚えたら、文法を気にせず英文が流し読みできるようになった」とのこと。でも、これは、もともと頭が切れるのに加え、単語を覚えつつ、それと並行して大量の英文に接していたからに違いありません。だから生徒への私のもう1つのアドバイスは、「英検準2級レベルの簡単な英文から日本語にしないで英語のまま読んでいくトレーニング」でした。ガンバレ受験生!